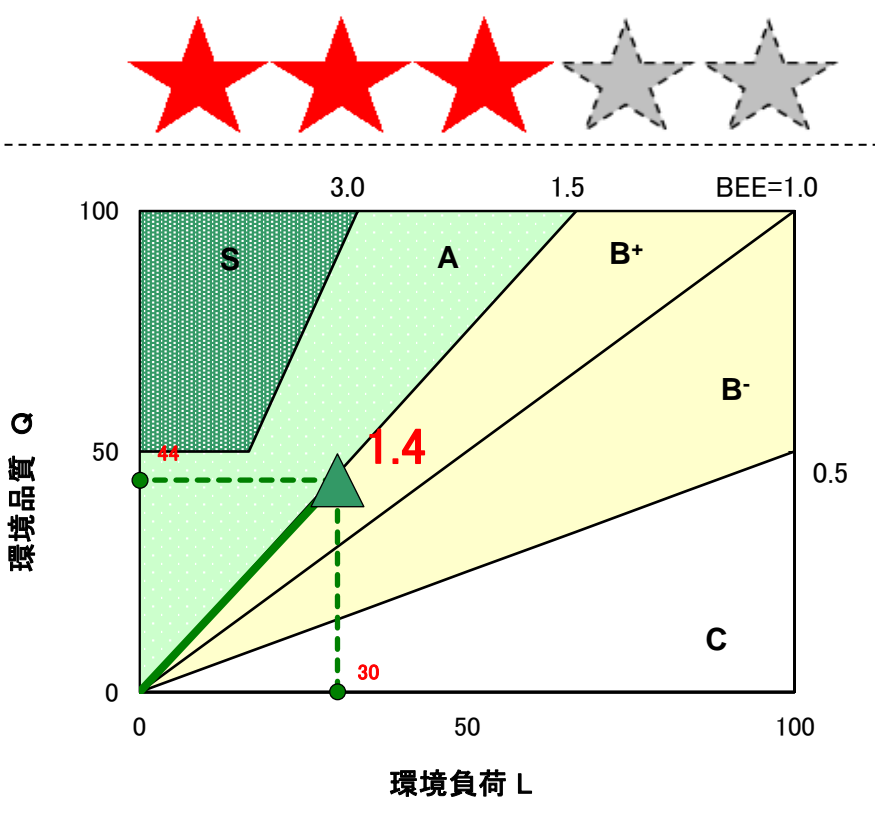


# CASBEE<sup>®</sup> 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	富士ダイス株式会社熊本製造所新築	階数	地上2階、地下-階	
建設地	熊本県玉名郡南関町関下1911-1、1	構造	S造	
用途地域等	都計外(準都計外)	平均居住人員	30人	
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年	
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2023年7月 予定	評価の実施日	2023年7月13日	
敷地面積	26,233 m <sup>2</sup>	作成者	秋山 広人	
建築面積	2,120 m <sup>2</sup>	確認日	2023年7月14日	
延床面積	2,133 m <sup>2</sup>	確認者	村田 健一	

## 2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.4

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆


■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

78%

## 3 熊本県重点評価結果

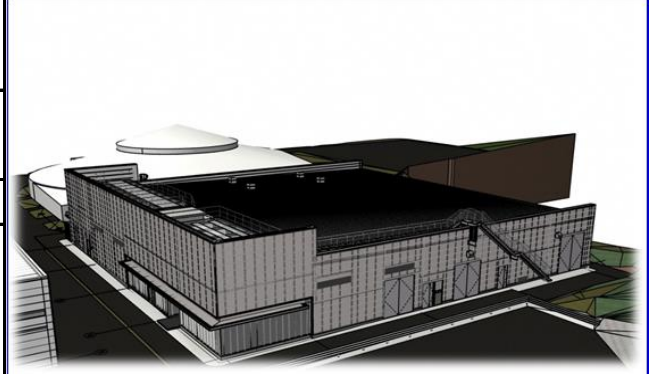
重点事項総合評価		評価点												
		90												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	94.8	<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td>★★★★★</td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td>★★★★</td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td>★★★</td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td>★★</td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td>★</td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上	★★★★★	80点以上100点未満	★★★★	60点以上80点未満	★★★	40点以上60点未満	★★	40点未満	★
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上	★★★★★													
80点以上100点未満	★★★★													
60点以上80点未満	★★★													
40点以上60点未満	★★													
40点未満	★													
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	68.7													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	85.7													
【重点事項4】 循環型社会の実現	105.7													

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士ダイス株式会社熊本製造所新	階数	地上2階、地下-階
建設地	熊本県玉名郡南関町関下1911-1、	構造	S造
用途地域等	都計外(準都計外)	平均居住人員	30人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年7月 予定	評価の実施日	2023年7月13日
敷地面積	26,233 m <sup>2</sup>	作成者	秋山 広人
建築面積	2,120 m <sup>2</sup>	確認日	2023年7月14日
延床面積	2,133 m <sup>2</sup>	確認者	村田 健一



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

Qのスコア = 2.7

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

#### LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.7

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 90

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進	94.8	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現	68.7
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全	85.7	重点事項4: 循環型社会の実現	105.7

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**富士ダイス株式会社熊本製造所新冶金棟**

評価点が3超の項目

水色セル欄に数値やコメントを記入

⇒Q1~Q3シートやLR1~LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.31</b>		-	<b>2.5</b>
<b>1 音環境</b>						<b>1.7</b>	0.15	-	-	<b>1.7</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 遮音						<b>1.8</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						<b>1.0</b>	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.2</b>	0.35	-	-	<b>2.2</b>
2.1 室温制御						<b>3.5</b>	0.50	-	-	
1 室温				※按分計算		<b>3.0</b>	0.38	-	-	
2 外皮性能						<b>5.0</b>	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						<b>1.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.7</b>	0.25	-	-	<b>2.7</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	0.43	-	-	
1 昼光率						<b>1.0</b>	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						-	-	-	-	
1 昼光制御						-	-	-	-	
3.3 照度				全般照明方式で500lx以上		<b>4.0</b>	0.21	-	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.36	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.2</b>	0.25	-	-	<b>3.2</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.2 換気						<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量				中央管理方式以外:基準法およびビル管法の1.4倍以上		<b>5.0</b>	0.33	-	-	
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.33	-	-	
4.3 運用管理						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.8</b>	0.40	-	-	<b>2.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						<b>3.0</b>	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>2.3</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						<b>1.0</b>	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース				1%以上のリフレッシュスペース、自動販売機の計画		<b>5.0</b>	0.33	-	-	
3 内装計画						<b>1.0</b>	0.33	-	-	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				評価する取組みが6~8		<b>4.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>4.2</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				30年以上		<b>5.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				20年以上		<b>5.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				特に劣化しやすい系統の90%以上の範囲を長寿命化		<b>5.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				上位3種の2種類以上にB以上を使用、Eは不使用		<b>5.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>2.8</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						<b>2.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.9</b>	0.30	-	-	<b>3.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.09 < 1	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		ほぼ全範囲で3500N/m <sup>2</sup> 以上~4500N/m <sup>2</sup> 未満	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.39</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.0</b>
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> =0.86	<b>4.4</b>	0.01	-	-	<b>4.4</b>
2	自然エネルギー利用		<b>3.0</b>	0.12	-	-	<b>3.0</b>
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.63	<b>4.7</b>	0.62	-	-	<b>4.7</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1	節水	節水コマ等、省水型機器	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.2</b>	0.60	-	-	<b>4.2</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	構造耐力上主要な部分にリサイクル資材:基礎関連のコン部材に高炉セメントB種	5.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル床シート、天井岩綿吸音板、押出ポリスチレンフォーム	5.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装材と設備が錯綜しない、再利用できるユニット部材	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつGWP=50未満	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO <sub>2</sub> 排出量に配慮	<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
2.1	大気汚染防止		-	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		<b>3.0</b>	0.67	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		<b>2.7</b>	0.33	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	スペースやサービス用の確保、導入路の工夫	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たす、広告物照明はない	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	富士ダイス株式会社熊本製造所新冶金棟	

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本&lt;&lt;新築&gt;&gt;2017年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		90
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				94.8	0.40	37.92
Q1-2.1.2	外皮性能	5.0	0.11			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.11			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.4	0.01			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.22			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.7	0.33			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.11			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.11			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				68.7	0.20	13.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				85.7	0.20	17.14
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				105.7	0.20	21.14
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	4.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

富士ダイス株式会社熊本製造所新冶金棟

印刷:モノクロ  
設定済み

- ・適宜、箇条書き等で記入してください。
- ・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	・LR1省エネルギー性能、及びLR2資源マテリアルの面を中心に環境に配慮した	
Q1 室内環境	・適切な断熱仕様、照度設定で利用者の快適性に配慮	
Q2 サービス性能	・十分な階高、壁長さ比、積載荷重で設定でフレキシビリティに配慮	
Q3 室外環境 (敷地内)	・特になし	
LR1 エネルギー	・高効率設備の採用で省エネ性能に配慮	
LR2 資源・マテリアル	・節水器具やリサイクル材の採用により省資源に配慮	
LR3 敷地外環境	・LCCO2排出量に配慮	
その他	・特になし	